

## 川崎市川崎区市民提案型協働事業審査委員会 摘録

日時：令和8年3月3日（火）

午後1時～午後5時

場所：川崎区役所 10階第1第2会議室

出席者（敬称略）

委員：佐谷和江委員長、石井芳和委員、長田英史委員、鈴木奈穂美委員

提案団体：スリーアドバンスステージ合同会社、いきがい工房さらら、一般社団法人グローバル文化協働支援センター、一般社団法人地域芸術文化振興協会、川崎区地域教育会議、

所管課：危機管理担当、企画課、生涯学習支援課、地域ケア推進課、道路公園センター

事務局：企画課

傍聴者：なし

### 1 開会

- ・事務局から資料確認、会議の成立を確認

### 2 令和8年度提案事業の審査

#### (1) 審査方法について

- ・事務局から、審査の進め方について説明

#### (2) 会議公開の確認

- ・事務局から、公開及び非公開内容の確認

#### (3) 提案団体による提案内容説明（10分／団体）

提案1	生活・教育における個別最適化された切れ目のない子育て支援 ～生まれる前からの支援・生まれた直後からの支援・成長段階に合わせた支援
提案団体	スリーアドバンスステージ合同会社
所管予定課	地域ケア推進課

#### 提案団体への質疑

佐谷委員 3つの年齢層（妊娠期／0～4歳／4歳以降）の子ども向けの事業計画であるが、各講座およびワークショップは、どのように対応するのか。

提案団体 月ごとに対象とテーマを設定して実施する。ただし、これは一例であり、「妊娠期／未就学／学齢期」の3本立てに拡張することも可能。ニーズに応じて対象の調整を柔軟に行う。

8月：プレパパ・プレママを対象とする。妊娠後期から産後すぐに役立つ情報をまとめて扱う。

9月：4歳～小学生（年少～年長、小学校低学年を含む）を対象とする。

10月：生後～4歳の乳幼児期を対象とし、声かけや発達に関する内容を中心に扱う。

11月：3歳～小学校低学年を想定し、習い事・塾選びをテーマとする。

12月：4歳以上を対象に、就学前後の「短期受験」などを扱う。

1月：4歳以上の親子参加回とする。

佐谷委員 事業目的とゴールに掲げた、①産前産後の孤立の軽減・解消②情報過多による保護者の疲弊の軽減・解消③収入格差による教育機会・体験機会の損失の軽減・解消の各項目が、どのプログラムに対応するのか整理して説明していただきたい。

提案団体 ①は主として妊娠後期～産後6か月の講座に対応する。家庭内の環境調整（住環境、声掛け、日課等）と事前情報の提供により不安と孤立を軽減する。②はすべての年齢段階に共通である。世の中の情報の良否を論じるのではなく、「その子にとって何が合うのか」を観察に基づいて個別助言することを核とする。③については、理科実験・体験学習や習い事の選び方等を通じて、子どもに合うスタイルを助言する。自身の理科実験教室等の資源も活用する。

鈴木委員 協力者との関係性はどのようになっているか。誰がどの領域を担うのか説明していただきたい。

提案団体 妊娠・乳幼児期（0～4歳）は保育園園長、元保育士、子育て支援者が協力する。4歳以降～学童期向けの理科実験についてはクリエイターなどが担当する。相談支援は臨床心理士と連携して対応する。

長田委員 講座およびワークショップの回数が流動的とのことだが、予算はどのように積算したのか。最低限何回実施するのか。

提案団体 講座およびワークショップは8回の実施を前提とし、協力者謝金や印刷費等を積算している。追加で回数を増やす場合は、代表者のみで担当する回を設ける等により、追加費用を生じさせずに対応する。

石井委員 この事業は他の区で既に実施しているのか。また、既に実施している事業と今回の提案との違いはどこにあるのか。

提案団体 家庭を個別に訪問し、遊びの様子を見ることなどは行っているが、全体に向けて継続的に行うものではなく、新生児向けのプログラムを連続して行うということは実施していない。

石井委員 川崎区でこの事業を実施する意義を改めて伺いたい。

提案団体 事業目的の中で、川崎区に最もコミットできるのは、事業目的③である「収入格差による教育機会・体験機会の損失の軽減・解消」である。収入格差によって教育機会や体験が難しくなる現状に対し、質の高い体験を安価または無料で提供したい。体験したことのない子に体験を届け、限られた資本の中で最大の成果を得られるよう支援することを主に考えている。

提案2	防災まるしえ
提案団体	いきがい工房さらら
所管予定課	危機管理担当

#### 提案団体への質疑

石井委員 今年度の経験を踏まえて、外国につながる方々への対応を強化することだが、家族への広報と多言語情報の作成以外に、外国人が多く出入りする施設等へ出向くアプローチは考えているか。

提案団体 ふれあい館での学習支援や寺子屋事業には外国につながる子どもが参加している。また、京町には県立川崎高校があり、外国につながる生徒が多い。こうした学校等への情報提供は有効だと考えており、子どもを通じて保護者にも情報が届く。市立川崎高校にも同様の生徒がいるため、学校を通じた広報は現実的である。次年度は、翻訳したチラシを配布できる体制を整えたい。

鈴木委員 多言語情報の作成について、予算上の計上が盛り込まれていないように見える。どのように実現し、費用を抑えるのか。

提案団体 AI翻訳を活用し、最終チェックをネイティブのボランティアに依頼することで費用を抑える。英語・スペイン語・韓国語などに対応可能である。パンフレットやリーフレットはAI翻訳の品質が近年向上しており、ボランティアの微修正で十分対応できる。当日の説明については、現地で対応できる体制を整える。

長田委員 提案事業終了後の中長期的な展望をどのように考えているか。

提案団体 今後は展示物を町内会などに持参する「出前型」の展開も可能と考えている。ボランティアを中心に、地域で使い回せる展示物を整備していきたい。疑似体験の企画も継続する予定であり、より良い方法があれば随時検討したい。また、

学校での出前授業のように、「地域の多様な人たちを知る」学びの場も構想している。

佐谷委員 「エキスパート育成」が課題として挙げられているが、どのような人材育成を想定しているのか。

提案団体 地域の方がテーマ別に語れるようになることを目指している。例えば、外国人支援、子育て家庭の防災、ペットの災害対応、女性の視点、日常の備えなど、テーマごとにワークショップ運営や説明ができるような人材を育成したい。初年度は初開催ということもあり、会場の騒がしさや時間の短さ、出店に人が流れるなどの課題があった。来年度はワークショップへの参加を促し、興味を持った人がさらに学び、翌年度以降の担い手になれる流れをつくりたい。現状は外部講師への謝礼によりブースを運営しているが、将来的には川崎区内で話せる人材が増え、町会等が自走できる状態を目指している。

提案3	かわさきグローバルアカデミー第2期モデル事業
提案団体	一般社団法人グローバル文化協働支援センター
所管予定課	生涯学習支援課

#### 提案団体への質疑

鈴木委員 前期講座と後期講座が9～10月に重なっている。相当なマンパワーとエネルギーが必要になると思うが、対応は可能か。

提案団体 第1期で人が集まり、指導者も増えたため対応可能と考えている。人材のやり繰りにも問題はない。

石井委員 将来的な自走まで見据えると、ボランティア育成が非常に重要だ。特に学童交流ジムは回数が多く負荷も大きいですが、ボランティア育成をどう考えているか。

提案団体 地域のつながりを生かし、地域団体に協力を得ている。外国人講師については外国人コミュニティがあり、そこに声をかけることで候補者を確保できている。

石井委員 学童交流ジムの参加者を増やしたいとのことだが、今年度の報告では高校生がなかなか来なかったという話だった。高校生層の参加拡大はどう考えるか。

提案団体 来年度は専門学校にも呼び掛け、特に外国人のいる専門学校と連携したい。高校については、ボランティアのクラブ活動・同好会のような形で広げたい。宝探しやeスポーツなど若者が興味を持ちやすい企画も取り入れ、自分の価値を発揮できる場にしていきたい。

- 佐谷委員 学童交流ジムに高校生は参加者として来てもらうのか、それとも指導者としての参加か。
- 提案団体 高校生や大学生は指導者としての参加を想定している。勉強を教えられなくても子どもと遊んだり一緒に過ごしたりするだけでも良い。大学生にも声を掛け、もっと巻き込んでいきたい。
- 佐谷委員 学習支援の範囲を確認したい。中学生は高校受験を意識した支援になるが、高校生の大学受験支援も行うのか。
- 提案団体 家庭の事情で塾に通えないが大学を目指す子どもには、学習支援があってもいいと考えている。子どもたちの将来の可能性を広げる場にしたい。
- 長田委員 長期的なスパンで活動を捉えたときの到達点のイメージがあれば教えてほしい。例えば5年後の姿をどう考えているか。
- 提案団体 「グローバルアカデミー」を継続できる仕組みを確立し、今の子どもたちが数年後には指導者になるような循環をつくりたい。予算面では企業支援も得られるようにしたい。

提案4	こども未来応援プロジェクト
提案団体	一般社団法人地域芸術文化振興協会
所管予定課	企画課

#### 提案団体への質疑

- 鈴木委員 DAOについて、今回の提案でどのように導入・活用するのか、教えていただきたい。
- 提案団体 権限や意思決定を一か所に集中させず、複数拠点に分散し、テーマごとに関係者が横断的につながる組織イメージで運用する考え。もともとはデジタル通貨やブロックチェーンの設計思想が基盤だが、本プロジェクトでは現実の運営に応用する。特定の団体が上から統括するのではなく、音楽(合唱・合奏)、学習支援、多文化交流、公演・発表運営といったテーマに、関心や強みのある団体・個人が横断的に集まり、必要に応じて協働する。本企画に合う活動には参加し、合わない場合は別で動くという、緩やかな連結を想定する。
- 長田委員 川崎のつながりが薄いという話もあったが、なぜ川崎区で活動するのか。
- 提案団体 前身の華楽坊音楽教室の合唱団が近隣にあり、そこに指導者を派遣していた経緯から川崎での活動になった。合唱団を継承していくうえで、合唱だけでは

子ども支援として十分でないため、合唱に居場所の機能を加えた企画を考えている。外部者という立場の利点もあり、地元で生じがちな人間関係のしがらみ（特定団体間の不仲や依頼の制約）に縛られずに動ける点から、川崎市で取り組む意義がある。

石井委員 提案書の事業目的に「川崎市および近隣に在住する多様なバックグラウンドの子どもたち」とある。「近隣」はどの範囲を想定しているのか。

提案団体 合唱団には横浜から通う子どももおり、そうした子どもを取りこぼさず一緒に進める意図で「近隣」とした。1～2人程度であれば東京からの参加があっても共に活動したい。ただし、活動の場はあくまで川崎に置く。

石井委員 区の事業である以上、参加する子どもの割合は重要となる。また、対象とする子ども像をどう考えるか。

提案団体 当初は華僑（中国系）の子どもが中心だったが、日本の子どもにも参加を広げる試みをこの1年進め、少しずつ増加している。特に小さい子どもであれば、言葉が違ってても歌を通して心が通う。私は川崎区在住で音楽の仕事と個人指導を続けており、子どもたちからは学校で歌う機会が少なく、鍵盤ハーモニカ必修がきっかけで音楽を苦手にする例も聞いている。音楽を学ぶことで芸術全般のハードルが下がり、皆で一体になる体験は楽しく記憶に残る。多様な国の人がいる川崎において、子どもが歌で活躍する場はさらに広げられる。このプロジェクトを通して仲間を増やし、華僑の子どもだけでなく日本、韓国、台湾などの子どもたちの育ちに一助になりたい。川崎区からの参加も増えるとよい。

佐谷委員 参加費の設定から見ると、参加者は15人程度のイメージか。

提案団体 運営の目が届かず事故リスクが高まるため、適切な人数で運用したい。

佐谷委員 カルッツでのコンサートでは参加者が継続して出演するのか。

提案団体 子どもの出演が15～20人の場合、プログラムは約15分が限界となるため、大人の別団体とジョイントで実施してきた。後半に名曲の鑑賞プログラムを置き、前半・後半で構成を分ける。子どもは前半に短時間出演し、その後にプロ等のプログラムが続く。また、大人と一緒に歌う構成は好評で、ハーモニーに子どもが加わる形にしている。

佐谷委員 カルッツの会場費30万円は、何席規模を想定しているか。

提案団体 多目的音楽スタジオに椅子を並べ、ピアノを搬入して使用する前提で、約 200 席を想定している。

長田委員 DAOの導入を具体的にどう行うか簡潔に教えてほしい。

提案団体 DAO は自団体のホームページ上の既存システムと連動させて実装し、多様な関係者が参加できる仕組みを用意する。オンラインの連携に加え、カルッツでのイベントを立てて実際の参加を促し、その後は別会場とも連携する。曲や情報、楽譜、楽器の共有といったことを進める。

提案5	わくわく原っぱin富士見公園
提案団体	川崎区地域教育会議
所管予定課	企画課、道路公園センター

#### 提案団体への質疑

長田委員 プレーリーダーや見守り人材の育成が、この事業の最も重要な点になると考えている。その見通しを具体的に教えてほしい。

提案団体 横浜市には 23 か所のプレーパークがあり、横浜市が委託しているNPOがプレーリーダーを養成し、各プレーパークへ派遣する体制が整っている。そちらの有資格者とは既にコミュニケーションがある。また、川崎市の夢パークにもプレーリーダーが配置されており、こちらとも連絡を取っている。外部からの派遣に加え、自前の人材も育成していく。大学生や 20 代の若者で当団体と関わる人たちとは一定のつながりがある。本来であれば、安定した給与を用意し職員としてスカウトしたいが、当面はアルバイト的な関わりで参画してもらう形をベースに考えている。

石井委員 現在は試験導入として実施しているとのことだが、実際にどのような子どもが来ているのかを知りたい。また、公園内にはボルダリング風の設備などもあるが、安全管理上の責任の所在やけがが起きた際の保険についても教えてほしい。

提案団体 来訪者の層は、幼児・未就学児が比較的多く、次いで小学生低学年が続く。中学生が来ることもあり、小さい頃にやり残した遊びを取り戻すように穴掘りなどに取り組む姿もある。特性のある子どもについては、自分のやりたいことを見つけられるよう間口を広げていきたい。施設の安全管理については、党団体が賠償・傷害保険に加入しており、けがや対物に対してカバーできる体制を確認した上で運用している。手作り設備は必ず業務日誌を付け、開始時点検と作業点検を行い、危険箇所は近づかせない・触れさせないよう囲いなどで管理

し、現場スタッフと点検している。手作り設備に不備がありけがが発生した場合の責任は当団体に帰属し、保険もその前提で加入している。指定管理者はチェックする立場であり、管理者側の保険が直接カバーするかはケースによるものの、公園における一般的な事故の扱いになると考えている。

石井委員 提案書に記載の保険費は誰を対象としたものか。  
提案団体 対象は子どもだけでなく大人も含めたすべての施設利用者であり、回数や人数によって費用が変動する。3万円で一定規模をカバーできると見込んでいる。

佐谷委員 人件費を見ると「見守りスタッフ：年間60日×3人」と記載がある。年間60日運営し、各回3人を配置するという理解でよいか。この3人の中にプレーリーダーは含まれるのか。

提案団体 ここは呼称の問題で、見守りスタッフ＝運営要員として記載している。理想は職業的なプレーリーダーを配置し、平日も含めて常時活用できる体制だが、現状はお手伝いベースである。交通費程度の謝礼を支払い、若年層に参画してもらっている。60日は昨年の運用経験からの見立てで、7～8月は開場を控え、10か月運用で月6回程度を想定している。そこから将来のプレーリーダー候補を育てていきたい。大学・大学院・サークルなどとの連携で、ボランティア育成も視野に入れている。

佐谷委員 「冒険士の広場」は元々の公園名称なのか。指定管理者と川崎市地域教育会議で実施されているプレーパークの違いは何か。

提案団体 通年のエリア名称は「土の広場」である。その上で、当団体がプレーパークを開く時間帯の呼称として「冒険士の広場」を用いている。また、イベント時には別の名称を用いる場合がある。経緯として、私は10年前から公園に遊び場をつくる提案をしてきた。富士見公園リニューアルの際にこの趣旨が受け止められ、「土の広場」という名称が付けられたと理解している。覚書により、指定管理者と川崎市地域教育会議の間で取り扱いが定められている。見守りのある時間以外であっても、自己責任の下、持ち込み道具で遊ぶことは可能である。当団体がオープンする時間帯には、穴掘り用スコップ、バケツ、フラフープ、工作材などの遊具・道具を出し、工作コーナーも整えている。

#### (4) 審査

- ・事務局から審査表の集計結果を共有し、得点順について説明。

##### 委員からの意見

事務局 川崎区地域教育会議の提案については、まず現行の設備が安全かどうかという問題がある。加えて、団体が指示を十分に聞き入れない状況もあり、協働事業として適切か疑問が残る。

長田委員 指定管理者との連携自体は良いが、責任の所在や負担が所管課に偏ってしまうと、所管課が消極的になるのは当然である。設備については危険なものはやめさせる必要がある。これを今回の評価のマイナスに使うのではなく、課題として切り分けて対応すべきだ。所管課は「聞いてもらえない」で済む話ではなく、危険なものは中止させるべきであり、最終的に事故が起これば自治体側の責任となる。保険の話で済む問題ではない。よって、評価の減点ではなく、審査委員会の要望として明確に示すべきである。

佐谷委員 本来なら、夢パークなどの団体と連携すれば人材確保は可能なはずだが、その連携ができていないように見える。「危険設備を撤去すること」を条件に採択することで良いのではないか。

事務局 道路公園センターには、危険設備についての改善（または撤去）指示を徹底してもらおう。審査委員会としては「土遊び・泥遊びを中心に実施すること」「プレーリーダー育成を努力すること」「危険設備を使わないこと」を付帯意見として付けるという整理で進めたい。

#### (5) 閉会